わたし、アナタ、min-na　No.6

そのすがたがうれしい

2016年9月23日　市立札幌開成中等教育学校便り
〒065-8558 札幌市東区北22条東21丁目1-1
TEL 011-788-6987(代表) FAX 011-781-5629
HP http://www.kaisei-s.sapporo-c.ed.jp/

後期の談話

校長　相沢克明

後期が始まって、約1カ月が過ぎました。10月３日の後期始業式では、三点についてお話をしました。みんさん、覚えていますか。

・開成高校から継承すべきこと

前期末に開催した「継承式典」では、歴代の開成高校の先輩たちから、各自の「開成」についてのお話がありました。おそらく、その話を聞きながら色々と感じたことがあったことと思います。是非、その各自が感じたことを自分なりに形に表してみてください。

私は、開成高校から引き継ぐべきことは「山アリ、空アリ、大地アリ　永遠を知れ」という校訓の中に全て込められていると考えています。この解釈は自由。「開成」とは、型にはめられるのではなく、自分から作り上げるものであり、「自由」を何よりも大切にしてきたということを改めて感じました。

・生活環境としての学校をみんなで守る

学校は、みんなが安全・安心に過ごすことができる場所でなければなりません。このことは、何物にも優先されるべきものです。

本校は教科教室型を採用している関係から、生徒一人ひとりにナンバーロック付きのロッカーが貸与されています。残念ながらそれがいたずらされるという事例が発生しました。これを受け、職員の間では南京錠などで二重ロックにすべきかなどの議論もありました。あのスマートなラウンジロッカーに厳ついもう一つの南京錠がぶら下がっている光景は、あまりにも美しくない、あまりにも開成らしくないと思います。二重ロックで自分のものを守らなければならない学校、そんな低い信頼感の中で「わたし、アナタ、min-na　そのすがたがうれしい」が日々実現する学校を作り上げることができるとは到底思えません。

「いたずらをしない、人の物をとらない。」この最も当たり前なことを全員で守り、そのような雰囲気を作り上げる。このことさえできれば、南京錠をつける必要はないのです。今、歴代の開成生が大切に引き継いできた「自由」の伝統を、私たちがしっかりと引き継ぐことができるかどうかが問われています。

・異文化との出会いによる学びの広がり

後期から、新たにグローバル人材育成推進員（GEA）４名が加わり、本校には、合計10名の外国人の先生が在籍することになりました。後期も、異文化と出会い、英語のコミュニケーション能力を高め、楽しむ機会が目白押しです。こんなチャンスに恵まれている公立学校は、他にはありません。

このチャンスを生かすのは、皆さん一人一人の一歩前に踏み出す勇気です。是非とも、開成留学にチャレンジしてみましょう。

私は、本校を日本一、世界一、いや宇宙一の学校にしたいと思っています。みんなが「宇宙一の学校」だと、胸を張って言える学校にしたいと思っています。一度きりの人生。この学校を舞台に今を十分に楽しみましょう。

<お知らせ>

日頃より本校の教育にご協力いただきありがとうございます。中等教育学校の図書館では、全校生徒約 980 名がいつでも探求活動をサポートできる状態を保つように整備されています。また、SGH の取組みの一つで生徒たちが図書館をコーディネートする活動を行っていますので地域、ご家庭への貸し出し等はご遠慮いただいています。

ご理解のほどよろしくお願いいたします。

<パラリンピックの最前線>

10 月 5 日(水) 1・2 時間目に、パラノルディックスキー日本チーム監督の荒井秀樹氏を講師に迎え、「パラリンピックの最前線」と題して講演会が開催されました。これは、パラノルディックスキーワールドカップ札幌大会が、平成 29 年 3 月 18 日(土)から 5 日間の日程で西岡バイアスロン競技場を舞台に開催されることから、障がい者スポーツへの理解を深めることを目的に開催されました。

視覚障がいのある選手がわずかに見える伴走者の姿を追いかけ、猛スピードで滑走していきます。スキー板の上の椅子に座り、両腕の力だけで力強く進みます。目が不自由なため、音の高低をたよりにねらいを定め、レーザー銃で射撃をします。今まで見たことのない映像が流れます。生徒たちは真剣な眼差しでスクリーンを見つめます。そこには確かなアスリートの姿が映し出されていました。「失ったものを数えるな。残されたものを最大限に活かせ」監督からのメッセージです。すべての生徒の心に残った言葉です。

生徒が質問しました。「障がい者の選手にどう接していますか？」実に素朴な質問です。監督は答えます。視覚障がいの選手であれば、「どういうふうに自分が見えますか？」と問いかけることから始めるそうです。右側半分しか監督の姿が映らない人。周りがすべてぼやけて見える人。下半分しか見えない人。障がいはひとり一人違います。監督はその選手が見える場所に自分が入り話かけるそうです。そこからトレーニングが始まります。

今後は、日本代表選手との交流やワールドカップ札幌大会の応援も考えています。障がい者スポーツに情熱を燃やす、荒井監督の熱意が伝わる素敵な講演会でした。

<生徒会長の所信表明>

このたび第二期生徒会長になりました 4-4 の千葉卓哉です。僕は生徒会長になるにあたり、生徒の皆さんにお約束したことは開成祭の変革、執行部の変革、生徒会主催の学校行事の変革、という三本の矢(三つの変革)の実現です。

僕の任期は十月より始まっており、三本の矢の実現に向けて、執行部員と共に最大限の努力をしています。生徒のみなさんと同じ視線に立ち、みなさんと共に、新しい札幌開成を創り上げていけたらうれしいと思っています。どうぞこれから一年間、第二期生徒会執行部をよろしくお願いします。

<新しい先生の紹介>

後期より新たにグローバル人材育成推進員（GEA）として４名の先生が赴任しましたのでお知らせします。

名前	教科
パリッシュ リチャード	英語
ダックワース ジェームス	英語
マック カーム ウェン	美術
ウォン アー イン	音楽

<今後の主な行事予定>

10 月

19(水)～24(月) 海外見学旅行(５年)
25(火)～26(水) 振替休業日(５年)
29(土) Ｌセミナーサタデー
先端科学特論(５年)
30(金) 回復日(２年)

11 月

1 (火)～2(月) グローバルリーダー研修(4 年)
7 (月) ガイダンスウィーク(～18(水)まで)
12(水) プレ先端科学特論(4 年)
15(土) Ｌセミナーサタデー
19(土)～28(月) 諸活動停止(4,5 年)
24(木)～25(金) 第三回定期考査(4,5 年)
28(月)～29(火) 宿泊学習(2 年)
30(水) 回復日(2 年)